

アフターケア通信

ご本尊を受けとられた貴方へ

うらぼんえ
盂蘭盆会

【7月号】



【盂蘭盆(会)とは】

盂蘭盆とは、その原語を想定して、「倒懸（とうけん）」（逆さ吊りの苦）とか、「お盆に盛った（供養の）ご馳走」と説明され、お釈迦さまのお弟子の目連尊者（もくれんそんじゃ）が、餓鬼道（がきどう）に墮（お）ち、逆さ吊りのような苦しみを受けている亡き母を、他のお弟子たちを供養することによって救ったという故事に由来します。7月、あるいは8月に勤められる仏事です。



石本 倫さん



【餓鬼のような私】

ある日の夕食後、仕事部屋にこもっていた父が、お茶飲みをしていた家族の元へとやって来た時、お菓子を頬張りながら父にも勧めたところ、「お前たちが美味しそうに食べるのを見るだけで結構」と微笑みながら言ったのです。その時、何かしら自分を恥ずかしく感じたことをお盆の時期に思い出します。

今月の門徒さん

お寺さんへお盆準備の手伝いに行ったとき、内陣に切子灯籠が下がっていました。「良い物があるな」と思い、早速自分で作ってみました。それ以降、お盆の時期になると毎年仏間に下げています。

三重地区のお盆は、帰省した家族や親戚が集まり夕方頃からお墓参りをします。提灯を下げて明かりを灯し、子どもは花火を飛ばして過ごします。お墓参りが終わると、各自治会で盆踊り大会。懐かしき人と出あえるお盆がとても待ち遠しいです。



いしもと ひとし
石本 倫さん

（第2組・正林寺）



【お盆を勤める】

「お盆」と言えば「お墓参り」と思われるかもしれませんが、「お盆」には先ず、一家そろってお内仏にお参りし、自らの「生き方」を問い直すきっかけをいただく行事（仏縁）として、心静かに過ごしたいものです。一般的なお盆の風習（精霊船・迎え火・送り火・精霊棚）は、真宗では必要ありません。

真宗大谷派 長崎教区教化委員会